

教育人的資源部 告示 第 2007-79 号 [別冊 14]

外国語科 教育課程 (Ⅱ)

教育人的資源部

ドイツ語、フランス語、スペイン語
中国語、日本語、ロシア語、アラビア語

1. 性格

最近、政治、経済、社会、文化全般にわたり、国際化を通じた活発な交流が進行している。よってわが国の外国語教育においても世界各地の主要言語と文化を疎かにはできず、多様な外国語教育が切実に要求されている。世界が一つの生活圏に発展していく今日、外国語習得と外国文化の理解は世界市民が備えるべき非常に大切な資質となっている。しかも国土が狭く天然資源が乏しいわが国が先進国へと跳躍するためには、世界の舞台で活動できる有能な人材を多数養成しなければならない。このような理由に基づき、国家教育課程において外国語教育は当然重要な位置を占めるべきである。

英語を除く高等学校の外国語科には‘ドイツ語Ⅰ’、‘ドイツ語Ⅱ’、‘フランス語Ⅰ’、‘フランス語Ⅱ’、‘スペイン語Ⅰ’、‘スペイン語Ⅱ’、‘中国語Ⅰ’、‘中国語Ⅱ’、‘日本語Ⅰ’、‘日本語Ⅱ’、‘ロシア語Ⅰ’、‘ロシア語Ⅱ’、‘アラビア語Ⅰ’、‘アラビア語Ⅱ’の14科目がある。

外国語科目の学習目標は理解と暗記を通して知識を習得することにとどまらず、さらに進んで体系的かつ効果的な活用練習を通して基礎的な外国語を駆使する能力を養うことにある。したがって、教材や授業も単純な情報の提供より、コミュニケーション中心の相互作用に基づいた練習及び活用を主に構成されるべきである。このような土台の上に外国語科目は学習者中心の教育を具現しなければならないし、なおかつ教科の中での学習効果はもちろん、教科を越えて創意的で批判的な思考を養うことのできる体験教育の基盤を固めるのにも寄与しなければならない。言語は思考の表現であり文化の結晶体であるため、外国語学習を通して他の国の思考や文化の長所を直接に、あるいは間接的に経験する場となるようにしなければならない。

高等学校の外国語教育では日常生活レベルの外国語を身につけ、学習者が当該外国語で基礎的なコミュニケーションを行ない、同時に上級学校へ進学した後も当該外国語を引き続き学習できる土台作りを行なう。また、外国文化への興味や関心に基づいて外国人の日常生活や生活様式への理解の幅を広げ、より肯定的で積極的な生活態度を養い、ひいては世界の中の韓国人として遜色のない行動様式を養うことができるようにする。

2. 目標

外国語の基礎的な表現を身につけて活用でき、目標言語圏の日常生活文化を正しく理解し関心を持つようにする。

- 1) 日常生活レベルの言葉や会話を聞いて理解する。
- 2) 簡単な表現を使って感情や意思を表現する。
- 3) 日常生活レベルの文章を読んで状況及び主題を把握する。
- 4) 日常生活レベルの易しい内容を文章で表現する。
- 5) 目標言語圏の文化の特性に注目して日常生活文化を正しく理解する。
- 6) 外国語でコミュニケーションしようとする積極的な態度や自信を持つ。

3. 内容体系

領域	内容	
言語的 内容	言語技能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「聞く」「話す」「読む」「書く」の各活動がバランスよく展開できるように領域別に内容提示
	言語材料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 発音及び綴字(文字)：各言語の標準発音及び綴字(文字)学習 ○ 語彙：【別表Ⅱ】の基本語彙表中心 <ul style="list-style-type: none"> －各言語の学習単語数－ ドイツ語Ⅰ：500語前後、ドイツ語Ⅱ：800語前後 フランス語Ⅰ：500語前後、フランス語Ⅱ：800語前後 スペイン語Ⅰ：500語前後、スペイン語Ⅱ：800語前後 中国語Ⅰ：400語前後、中国語Ⅱ：800語前後 日本語Ⅰ：500語前後、日本語Ⅱ：900語前後 ロシア語Ⅰ：400語前後、ロシア語Ⅱ：800語前後 アラビア語Ⅰ：400語前後、アラビア語Ⅱ：800語前後 ○ 文法：【別表Ⅰ】の意思疎通基本表現参照 <ul style="list-style-type: none"> －規定の文法事項遵守－ ○ 意思疎通基本表現：高等学校の水準に適切な基本表現
文化的 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目標言語圏国家の日常生活文化にかかわる内容 ○ 目標言語圏国家の社会文化的內容 	

9. 日本語 I

性格

国際社会はグローバル化の進展により隣接国家間の協力体制構築が急速に広がっている。このような動きは地域内国家間の共生共栄のための政治的、経済的協力だけでなく民間レベルの多様な協力や交流につながるようになる。このような時代の流れによって韓国と日本との協力と交流は更に拡大し、深まっていくであろう。ところが、韓日両国は政治、経済、社会、文化など様々な領域にわたる相互理解不足のため、解決しなければならない課題が少なくない。このような様々な問題を円満に解決して文化の異質性から来る諸般の誤解を解消し、東アジア地域の平和と繁栄に寄与するためには、異文化間の相互理解と円滑なコミュニケーション能力が要求される。

‘日本語 I’はこのような時代の要求にしたがって、韓日交流に能動的に対処できる人材を育てるために開設された基礎科目として次のような性格を持つ。

- 1、日常生活で使われるコミュニケーション機能の基礎的な能力を習得することに重点を置く。
- 2、コミュニケーション機能と場面による言語行動文化を理解し、相互交渉を重視する日本語学習と異文化間理解力を養うことに重点を置く。
- 3、情報活用の重要性を認識し、必要な情報を日本語で検索できる能力を養って知識基盤社会に適応できるようにする。
- 4、日本語学習を通じて、日本文化を理解すると同時に韓国文化を日本に紹介できる基礎的な能力を養う。
- 5、周辺にある日本語関連学習資源を自ら活用して学習する習慣を養う授業を行ない、学習者の自律する力と問題解決能力を向上させるのに寄与する。

‘日本語 I’と‘日本語 II’は水準と内容の関係を考慮して連続的、相互補完的に構成される。

目標

日常生活レベルの易しい日本語を理解して表現できる基礎的なコミュニケー

シヨン能力を養い、文化の相互理解と国際交流に積極的に参加する態度を養う。

1) 言語技能

言語4技能を有機的に関係させて場面と状況に応じ相互交渉ができるようにする。

(1) 聞く

- ① 日本語の発音を聞き、正確に区別できる。
- ② 日常生活レベルの短くて易しい表現を聞き、理解する。
- ③ 日常生活レベルの短くて易しい表現を聞き、状況に合わせて行動できる。

(2) 話す

- ① 日本語の発音の違いを正確に区別して話すことができる。
- ② 意思疎通基本表現を中心に短くて易しい表現で話すことができる。
- ③ 使用頻度の高い意思疎通基本表現を使って、状況に応じて言語行動文化に合わせて、適切に話すことができる。

(3) 読む

- ① ひらがなとカタカナを正しく読むことができる。
- ② 基本語彙表で使われる漢字を文章の中で読むことができる。
- ③ 日常生活と関連した短くて易しい文章を読んで理解する。
- ④ 日本文化と関連した短くて易しい文章を読んで理解する。

(4) 書く

- ① ひらがなとカタカナを正しい筆順で書くことができる。
- ② 基本語彙に使われる学習用漢字を書くことができる。
- ③ 日常生活と関連した短くて易しい文章を書くことができる。
- ④ 漢字仮名交じりの短くて易しい文章をコンピュータに入力できる。

2) 文化

- ① 日本人の基本的な言語行動文化を理解する。
- ② 日本人の基本的な日常生活文化を理解する。
- ③ 日本の重要な伝統文化と大衆文化を理解する。
- ④ 韓日両国文化の共通点と相違点を理解し、文化の多様性を認識する。

3) 態度

- ① コミュニケーション機能を学習する重要性を認識し、体験を通して自ら学習する態度を持つ。
- ② コミュニケーション機能を成功裏に遂行するために相互理解の重要性を認識し、自ら学習する態度を持つ。

- ③ 日本文化理解の必要性を認識し、文化に関連した学習資料に関心を持ち、自ら学習する態度を持つ。
- ④ 韓日文化交流の必要性を認識し、積極的に交流しようとする態度を持つ。
- ⑤ 情報検索の必要性を認識し、多様な媒体を活用する態度を持つ。
- ⑥ 日本語関連学習資源を活用する必要性を認識し、自ら活用する態度を持つ。

内容

1) 言語的内容

(1) 言語技能

【別表 I】の‘意思疎通基本表現’を全般的に取り扱うが、言語の 4 技能を有機的に関係させて場面や状況に応じて相互交渉ができるように適切に使用する。

(ア) 聞く

- ① 短くて易しい日本語を聞く。
- ② 簡単な日本語の教室用語を聞き取り、行動する。
- ③ 挨拶、紹介機能に関連した短くて易しい会話を聞く。
- ④ 感謝、謝罪など配慮及び態度伝達機能に関連した短くて易しい会話を聞く。
- ⑤ 情報要求と提供など情報交換機能に関連した短くて易しい会話を聞く。
- ⑥ 依頼、勧誘・提案など行為要求機能に関連した短くて易しい会話を聞く。
- ⑦ あいづち、聞き返しなど会話進行機能に関連した短くて易しい会話を聞く。

(イ) 話す

- ① 短くて易しい会話をする。
- ② 挨拶、紹介機能に関連した短くて易しい会話をする。
- ③ 感謝、謝罪など配慮及び態度伝達機能に関連した短くて易しい会話をする。
- ④ 情報要求と提供など情報交換機能に関連した短くて易しい会話をする。
- ⑤ 依頼、勧誘・提案など行為要求機能に関連した短くて易しい会話をする。
- ⑥ あいづち、聞き返しなど会話進行機能に関連した短くて易しい会話をする。
- ⑦ 非言語行動を会話の場面に合わせて使用する。

(ウ) 読む

- ① コミュニケーション機能に関連した短くて易しい文章を読む。

- ② コミュニケーション機能に関連した短くて易しい文章の意味を把握しながら読む。
 - ③ 招待状、メモ、葉書、標識、メニュー、案内文、電子メールなど日常生活で接することができる多様な学習資源を活用して短くて易しい文章を探して読む。
 - ④ インターネット上の短くて易しい文章を探して読む。
 - ⑤ 日本文化に関する短くて易しい文章を読む。
- (エ) 書く
- ① ひらがなとカタカナ、学習用漢字を正しく書く。
 - ② コミュニケーション機能に関連した短くて易しい文章を書く。
 - ③ メモ、葉書、手紙、案内文、日記など日常生活で使われる短くて易しい文章を書く。
 - ④ 漢字仮名交じりの短くて易しい文章日本語をコンピュータに入力する。
 - ⑤ 短くて易しい文章で電子メールを作成する。
 - ⑥ コミュニケーション機能に関連した短くて易しい日本語を韓国語に、韓国語を日本語に正しく翻訳する。
- (2) 言語材料
- (ア) 発音及び文字
- ① 発音は現代日本語の標準語（共通語）の発音を基本とする。
 - ② 使用文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
 - ③ 仮名の表記は‘現代仮名づかい’に従う。
 - ④ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用し、学習用漢字は基本語彙表に提示した漢字とする。ただし、人名、地名などの固有名詞に使う漢字は例外として取り扱う。
 - ⑤ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。但し、慣用的に使われるものは許容する。
- (イ) 語彙
- 【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に 500 語程度を使用する。
- (ウ) 文法
- 【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’に使われた文法項目を参照する。
- (エ) 意思疎通基本表現
- 意思疎通基本表現はコミュニケーション能力を効率的に養うものであるが、【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

- ① 挨拶：出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い
- ② 紹介：自己紹介、家族紹介、他己紹介
- ③ 配慮及び態度伝達：感謝、謝罪、褒め、励まし・慰め、承諾・同意、断り、遠慮、謙遜・譲歩、意志、希望、遺憾、訂正
- ④ 情報交換：情報要求、情報提供、判断・推測、状況説明、理由説明、意見提示、比較・対比、選択、確認
- ⑤ 行為要求：依頼、勧誘・提案、助言、許可要求、義務、禁止、警告
- ⑥ 会話進行：呼びかけ、話題転換、あいづち、聞き返し

2) 文化的内容

- (1) コミュニケーション機能に関連した日本人の言語行動文化の理解に役立つものとする。以下に提示する内容は選択して取り扱うことができる。
 - ① 言語行動に関する内容：表現的特徴、あいづちなど
 - ② 非言語行動に関する内容：身振り手振りなど
- (2) 日本人の日常生活文化の理解に役立つものとする。以下に提示する内容は選択して取り扱うことができる。
 - ① 家庭生活に関する内容：挨拶、訪問のマナー、家庭内の生活文化など
 - ② 学校生活に関する内容：クラブ活動など
 - ③ 社会生活に関する内容：貨幣、プレゼント、年号など
 - ④ 交通及び通信媒体に関する内容：交通事情、通信事情など
 - ⑤ 服飾文化に関する内容：衣服の種類など
 - ⑥ 食文化に関する内容：飲食物の種類、食事のマナーなど
 - ⑦ 住文化に関する内容：住宅事情など
- (3) 伝統文化と大衆文化の中で日本人と日本社会を理解するのに役立つものとする。以下に提示する内容は選択して取り扱うことができる。
 - ① 地域文化に関する内容：主要地名、観光名所、庭園など
 - ② 年中行事に関する内容：祭り、お正月、ひな祭り、こいのぼり、お盆、七五三など
 - ③ 伝統芸能に関する内容：茶道、生け花など
 - ④ 遊びの文化に関する内容：花見、花火など
 - ⑤ 大衆文化に関する内容：漫画、アニメなど
- (4) 次の項目に留意して文化的内容を構成する。
 - ① 内容は実用的なものとするが、最新の資料を基準に構成する。
 - ② 学習者の興味、ニーズ、知的水準などを考えて学習意欲を高める内容とする。

- ③ 言語表現に関連した素材領域は【別表 I】の‘意思疎通基本表現’範囲内の項目を参照し、このような表現が適切な文脈の中で活用できるように構成する。これにより特定の素材領域と関連した適切な表現方式が自然に習得できるようにする。
- ④ 文化的内容の説明の際、必要な場合には韓国語を使うことができる。
- ⑤ 日本の日常生活及び社会文化を正しく理解し、これを韓国文化と比較し、相違点及び共通点を認識するように内容を構成する。

教授・学習方法

1) 一般指針

- (1) 正確さよりは流暢さを養うのに重点を置いた学習となるようにする。
- (2) 教授・学習計画は言語の構造を中心とした学習よりもコミュニケーション機能が習得できるように計画を立てる。
- (3) 学習内容の理解と運用が容易になるよう授業を段階別に構成する。
- (4) 学習者の知的発達を考えてスパイラルに学習内容を構成する。
- (5) 学習者が学習活動に積極的に参加できる協同学習や体験学習が成り立つように構成する。
- (6) 学習者主導型の自律学習が活性化できるように構成する。
- (7) 学習動機を誘発できるよう学習者の関心とニーズを反映した発見学習を活用する。
- (8) 教授・学習に役立つ多様な情報通信技術（IT）関連媒体を活用する。
- (9) 学習者の水準に合わせて教科書の内容を再構成して使用する。
- (10) 学習者の水準と個性を考慮した個別学習を活用する。
- (11) 学習者の興味を高めるためにクイズ、ゲーム、歌など多様な学習資源を活用する。
- (12) 誤用を即座に訂正するのは、学習意欲を阻害する可能性があるため避けるようにする。

2) 言語技能

言語の 4 技能を有機的に関係させ、場面や状況に応じて相互交渉ができるよう教授・学習する。

(1) 聞く

- ① 単音や単語よりも文中心の自然な日本語を聞かせる。
- ② 聞き取り学習に役立つ写真や映像資料などを効果的に活用する。
- ③ 短くて易しい文を聞き取り、それを行動に移させる。

- ④ 自然な日本語が覚えられるようにネイティブスピーカーの発音を聞かせる。
- (2) 話す
- ① 言語行動文化に合わせたロールプレイ、シミュレーション、ゲームなどを活用する。
 - ② 学習者の学習参加機会を増やすよう構成する。
 - ③ グループ活動を中心に学習者の発話量を増やすようにする。
 - ④ 相手との関係、会話内容、談話展開、言語行動文化に合わせて表現できるよう段階的に学習させる。
 - ⑤ 自然な日本語が身につくようネイティブスピーカーの発音を聞かせ、繰り返し話させる。
- (3) 読む
- ① 短くて易しい日本語の文章を声に出して読ませる。
 - ② 日常生活でよく接する表示や標識、短くて易しい文章の電子メール、カードなど様々な学習資源を活用できるようにする。
 - ③ 漢字仮名交じりの短くて易しい文章を読んで、内容を要約して発表させる。
 - ④ 自然な日本語が覚えられるようにネイティブスピーカーの発音を聞き、繰り返し読ませる。
- (4) 書く
- ① 文字学習は文字中心よりも単語中心の学習となるようにする。
 - ② 短くて易しい日本語を統制作文 (Controlled Writing) 中心に指導する。
 - ③ 漢字仮名交じりの短くて易しい文章をコンピュータに入力させる。
 - ④ 短くて易しい文章で電子メールやカードなどを直接書かせる。
 - ⑤ 短くて易しい日本語の文章を聞き取り、内容を要約して文章で表現させる。
- 3) 言語材料
- (1) 発音および文字
- ① 発音は、現代日本語の標準語 (共通語) の発音ができるようにする。
 - ② 仮名表記は、‘現代仮名づかい’ に従って表記できるようにする。
 - ③ 学習用漢字は、基本語彙表に提示されている漢字が読み書きできるようにする。
 - ④ 韓国語の仮名表記は ‘国語の仮名文字表記法’ に従って表記できるようにする。
- (2) 語彙

- ① 語彙教育は単語を単純に暗記するにとどまらず、文章の中での使われ方を通じてその意味が把握できるようにする。
 - ② 実物や絵、写真などの資料を使用して単語の意味を理解させる。
- (3) 文法
- 【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’に使われた文法項目を参照して自然に覚えられるようにする。
- (4) 意思疎通基本表現
- ① 多様な学習資源を用いて状況を設定することによって学習者が意思疎通基本表現を適切に使えるようにする。
 - ② 学習者が意思疎通基本表現を活用して創意的に表現できるようにする。
- 4) 文化
- (1) 韓国文化と日本文化の共通点と相違点を学習者が自ら発見できるようにする。
 - (2) 固定観念や知識中心の学習よりも文化の多様性が発見できるようにする。
 - (3) 学習者を能動的に参加させるため、授業で取り扱われる文化に関する内容を個人別またはグループ別に調査して発表させるようにする。
 - (4) 文化学習は、理解度を高めるために絵、写真、映像などの視聴覚資料を積極的に活用する。
 - (5) 文化に関する内容を説明する際、必要な場合には韓国語を使うが、文化内容のキーワードはできるだけ日本語で覚えさせる。

評価

- 1) 評価指針
 - (1) 周辺的な事項よりも基本的かつ中心的な事項を中心に評価する。
 - (2) 評価目標に従って分離評価と総合評価を実施するが、できるだけ総合評価の比重を高める。
 - (3) 学習した内容を中心に聞く、話す、読む、書く、相互交渉能力をバランスよく評価する。
 - (4) 断片的な知識よりも円滑なコミュニケーションをするために役立つ言語行動文化や日常生活文化を中心に評価する。
 - (5) 学習者のコミュニケーション活動における参加度と態度を評価する。
 - (6) 評価の客観性を維持するため、評価基準を事前に提示し、その基準によ

って評価する。

- (7) 評価結果は学習者の個別指導に活用し、次の段階の教授・学習計画に反映させる。

2) 評価方法

以下に提示する方法の以外にも教師自らが評価方法を考案して適用できる。

(1) 聞く

- ① 短くて易しい日本語を聞いてその意味を理解する能力を評価する。
- ② 短くて易しい日本語を聞いて状況や話題を理解する能力を評価する。
- ③ 短くて易しい日本語を聞いて内容通りに行動できるかを評価する。
- ④ 短くて易しい日本語を聞いてキーワードを理解する能力を評価する。

(2) 話す

- ① 学習した内容を中心に質問する、あるいは答える能力を評価する。
- ② 絵や写真を見て簡単に説明・描写する能力を評価する。
- ③ インタビューを積極的に導入して評価する。
- ④ ロールプレイやシミュレーションなどを通じて学習内容を表現する能力を評価する。

(3) 読む

- ① 仮名と学習用漢字が使われている短くて易しい文章を読む能力を評価する。
- ② 短くて易しい会話文や文章を読んで大意を把握する能力を評価する。
- ③ 短くて易しい文章を読んでキーワードを探す能力を評価する。

(4) 書く

- ① 書き取り、統制作文 (Controlled Writing) を中心に評価する。
- ② 学習者の経験をテーマにした簡単な内容の文章を書く能力を評価する。
- ③ コンピュータを用いた日本語入力能力を評価する。
- ④ 多様なメディアを活用した情報検索活動の成果を評価する。

(5) 文化

- ① 自然な言語行動の遂行能力を中心に評価する。
- ② 日常生活文化は、個人別あるいはグループ別に調査した資料や発表内容を中心に評価する。
- ③ 伝統文化と大衆文化は、個人別あるいはグループ別に調査した資料や発表した内容を中心に評価する。

10. 日本語Ⅱ

1. 性格

国際社会はグローバル化の進展により隣接国家間の協力体制構築が急速に広がっている。このような動きは地域内国家間の共生共栄のための政治的、経済的協力だけでなく民間レベルの多様な協力や交流につながるようになる。このような時代の流れによって韓国と日本との協力と交流は更に拡大し、深まっていくであろう。ところが、韓日両国は政治、経済、社会、文化など様々な領域にわたる相互理解不足のため、解決しなければならない課題が少なくない。このような様々な問題を円満に解決して文化の異質性から来る諸般の誤解を解消し、東アジア地域の平和と繁栄に寄与するためには、異文化間の相互理解と円滑なコミュニケーション能力が要求される。

‘日本語Ⅰ’はこのような時代の要求にしたがって、韓日交流に能動的に対処できる人材を育てるために開設された基礎科目として次のような性格を持つ。

- 1、日常生活で使われるコミュニケーション機能の基礎的な能力を習得することに重点を置く。
- 2、コミュニケーション機能と場面による言語行動文化を理解し、相互交渉を重視する日本語学習と異文化間の理解力を養うことに重点を置く。
- 3、情報活用の重要性を認識し、必要な情報を日本語で検索できる能力を養って知識基盤社会に適応できるようにする。
- 4、日本語学習を通じて、日本文化を理解すると同時に韓国文化を日本に紹介できる基礎的な能力を養う。
- 5、周辺にある日本語関連学習資源を自ら活用して学習する習慣を養う授業を行ない、学習者の自律する力と問題解決能力を向上させるのに寄与する。

‘日本語Ⅱ’は‘日本語Ⅰ’で学習したコミュニケーション機能および文化を理解する力を深め、養う科目として、‘日本語Ⅰ’との水準と内容の連係を考慮して連続的、補完的に構成される。

2. 目標

日常生活レベルの日本語を理解して表現できるコミュニケーション能力を養い、文化の相互理解と国際交流に積極的に参加する態度を養う。

1) 言語技能

言語 4 技能を有機的に関係させて場面と状況に応じ相互交渉ができるようにする。

(1) 聞く

- ① 日常生活で使われるコミュニケーション機能に関連した表現を聞いて理解する。
- ② 多少長い会話を実際の場面に類似した環境で聞き、理解する。
- ③ 多少長い、日常生活レベルの表現を聞き、状況に合わせて行動できる。

(2) 話す

- ① 状況に応じて適切なイントネーションで話せる。
- ② 意思疎通基本表現を活用して多少長い話ができる。
- ③ 意思疎通基本表現を言語行動文化に合わせて、適切に話すことができる。

(3) 読む

- ① 基本語彙に使われる漢字を文章の中で日本語の読み方で読むことができる。
- ② 日常生活レベルの多少長い文章を読んで理解する。
- ③ 日本文化に関連した多少長い文章を読んで理解する。

(4) 書く

- ① 基本語彙に使われる漢字を正しい筆順で書くことができる。
- ② 漢字仮名交じりの多少長い文章をコンピュータに入力できる。
- ③ 日常生活レベルの多少長い文章を書くことができる。

2) 文化

- ① 日本人の言語行動文化を理解する。
- ⑤ 日本人の日常生活文化を理解する。
- ⑥ 日本の重要な伝統文化と大衆文化を理解する。
- ⑦ 韓日両国文化の共通点と相違点を理解し、文化の多様性を認識する。

3) 態度

- ① コミュニケーション機能を学習する重要性を認識し、体験を通して自ら学習する態度を持つ。
- ② コミュニケーション機能を成功裏に遂行するために相互理解の重要性を認識し、自ら学習する態度を持つ。

- ③ 日本文化理解の必要性を認識し、文化に関連した学習資料に関心を持ち、自ら学習する態度を持つ。
- ④ 韓日文化交流の必要性を認識し、積極的に交流しようとする態度を持つ。
- ⑤ 情報検索の必要性を認識し、多様な媒体を活用する態度を持つ。
- ⑥ 日本語関連の学習資源を活用する必要性を認識し、自ら活用する態度を持つ。

3. 内容

1) 言語的内容

(1) 言語技能

【別表 I】の‘意思疎通基本表現’を全般的に取り扱うが、言語の 4 技能を有機的に関係させて場面や状況によって相互交渉ができるように適切に使用する。

(ア) 聞く

多少長い日本語を聞く。

- ② 簡単な日本語の教育用語を聞き取り、行動する。
- ③ 挨拶、紹介機能に関連した多少長い会話を聞く。
- ④ 感謝、謝罪など配慮及び態度伝達機能に関連した多少長い会話を聞く。
- ⑤ 情報要求と提供など情報交換機能に関連した多少長い会話を聞く。
- ⑥ 依頼、勧誘・提案など行為要求機能に関連した多少長い会話を聞く。
- ⑦ あいづち、聞き返しなど会話進行機能に関連した多少長い会話を聞く。

(イ) 話す

- ① 多少長い会話をする。
- ② 挨拶、紹介機能に関連した多少長い会話をする。
- ③ 感謝、謝罪など配慮及び態度伝達機能に関連した多少長い会話をする。
- ④ 情報要求と提供など情報交換機能に関連した多少長い会話をする。
- ⑤ 依頼、勧誘・提案など行為要求機能に関連した多少長い会話をする。
- ⑥ あいづち、聞き返しなど会話進行機能に関連した多少長い会話をする。
- ⑦ 非言語行動を会話の場面に合わせて使用する。

(ウ) 読む

コミュニケーション機能に関連した多少長い文章を読む。

コミュニケーション機能に関連した多少長い文の意味を把握しながら読む。
招待状、メモ、葉書、標識、メニュー、案内文、電子メールなど日常生活で接することができる多様な学習資源を活用して多少長い文を探して読む。

インターネットなど様々な媒体を活用して多少長い文を探して読む。

日本文化と関連した多少長い文を読む。

(エ) 書く

- ① 学習用漢字を正しく書く。
- ② コミュニケーション機能に関連した多少長い文章を書く。
- ③ メモ、葉書、手紙、案内文、日記など日常生活で使われる様々な文章を作成する。
- ④ 漢字仮名交じりの多少長い日本語をコンピュータに入力する。
- ⑤ 日本語で電子メールを作成する。
- ⑥ コミュニケーション機能に関連した多少長い日本語を韓国語に、韓国語を日本語に正しく翻訳する。

(2) 言語材料

(ア) 発音

現代日本語の標準語（共通語）の発音を基本とする。

(イ) 文字

- ① 使用文字はひらがなとカタカナ、漢字を基本とする。
- ② 仮名の表記は‘現代仮名づかい’に従う。
- ③ 表記用漢字は日本の常用漢字の範囲内で使用し、学習用漢字は基本語彙表に提示した漢字とする。ただし、人名、地名などの固有名詞に使う漢字は例外として取り扱う。
- ④ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従う。但し、慣用的に使われるものは許容される。

(ウ) 語彙

【別表Ⅱ】に提示されている基本語彙を中心に 500 語程度を使用する。

(エ) 文法

【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’に使われた文法項目を参照する。

(オ) 意思疎通基本表現

意思疎通基本表現はコミュニケーション能力を効率的に養うものであるが、【別表Ⅰ】に提示されている‘意思疎通基本表現’を積極的に活用する。

- ① 挨拶：出会い、別れ、安否、外出、帰宅、訪問、食事、年末、新年、お祝い
- ② 紹介：自己紹介、家族紹介、他人紹介
- ③ 配慮及び態度伝達：感謝、謝罪、褒め、励まし・慰め、承諾・同意、断

- り、遠慮、謙遜・譲歩、意志、希望、遺憾、訂正
- ④ 情報交換：情報要求、情報提供、判断・推測、状況説明、理由説明、意見提示、比較・対比、選択、確認
 - ⑤ 行為要求：依頼、勧誘・提案、助言、許可要求、義務、禁止、警告
 - ⑥ 会話進行：呼びかけ、話題転換、あいづち、聞き返し

2) 文化的内容

(1) コミュニケーション機能に関連した日本人の言語行動文化の理解に役立つものとする。

- ① 言語行動に関する内容：表現的特性、あいづちなど
- 非言語行動に関する内容：身振り、手振りなど

(2) 日本人の日常生活文化理解に役立つものとする。

- ① 社会生活に関する内容：交友関係、季節の挨拶など
- ② 大衆メディアに関する内容：新聞、放送など
- ③ 環境に関する内容：ゴミ分別の方法、自然保護、公害など
- ④ 余暇活用に関する内容：旅行、スポーツ、ボランティア活動など
- ⑤ 危機管理に関する内容：地震などの自然災害、緊急時の電話番号など

(3) 伝統文化と大衆文化の中で日本人と日本社会を理解するに役立つものとする。

- ① 通過儀礼に関する内容：入学、結婚など
- ② 伝統芸能に関する内容：歌舞伎、能など
- ③ 大衆文化に関する内容：映画、ドラマ、ゲーム、音楽など

(4) 次の項目に留意して文化的内容を構成する。

- ① 内容は実用的なものとするが、最新の資料を基準に構成する。
- ② 学習者の興味、必要、知的水準などを考えて学習意欲を高められる内容とする。
- ③ 言語表現と関連した素材領域は【別表 I】の‘意思疎通基本表現’範囲内の項目を参照し、このような表現が適切な文脈の中で活用できるように構成する。これにより特定の素材領域と関連した適切な表現方式が自然に習得できるようにする。
- ④ 文化的内容の説明の際、必要な場合には韓国語を使うことができる。
- ⑤ 日本の日常生活及び社会文化を正しく理解し、これを韓国文化と比較し、相違点及び共通点を認識するように内容を構成する。

4. 教授・学習方法

1) 一般指針

- (1) 正確さよりも流暢さを養うことに重点を置いた学習となるようにする。
- (2) 教授・学習計画は言語の構造を中心とした学習よりもコミュニケーション機能が習得できるように計画を立てる。
- (3) 学習内容の理解と運用が容易になるよう授業を段階別に構成する。
- (4) 学習者の知的発達を考えてスパイラルに学習内容を構成する。
- (5) 学習者が学習活動に積極的に参加できる協同学習や体験学習が成り立つように構成する。
- (6) 学習者主導型の自律学習が活性化できるように構成する。
- (7) 学習動機を誘発できるよう学習者の関心とニーズを反映した発見学習を活用する。
- (8) 教授・学習に役立つ多様な情報通信技術（IT）関連媒体を活用する。
- (9) 学習者の水準に合わせて教科書の内容を再構成して使用する。
- (10) 学習者の水準と個性を考慮した個別学習を活用する。
- (11) 学習者の興味を高めるためにクイズ、ゲーム、歌など多様な学習資源を活用する。
- (12) 誤用を即座に訂正するのは、学習意欲を阻害する可能性があるため避けるようにする。

2) 言語技能

言語の 4 技能を有機的に関係させ、場面や状況に応じて相互交渉ができるよう教授・学習する。

(1) 聞く

- ① 周囲の雑音が含まれている自然な日本語を聞かせる。
- ② 聞き取り学習に役立つ写真や映像資料などを効果的に活用する。
- ③ 多少長い文章を聞き取り、それを行動に移させる。
- ④ 自然な日本語が覚えられるようにネイティブスピーカーの発音を聞かせる。

(2) 話す

- ① 言語行動文化に合わせたロールプレイ、シミュレーション、ゲームなどを活用する。
- ② 学習者の学習参加機会を増やせるよう計画する。
- ③ グループ活動を中心に学習者の発話量を増やすようにする。
- ④ 相手との関係、会話内容、談話展開、言語行動文化に合わせて表現できるよう段階的に学習させる。
- ⑤ 自然な日本語が覚えられるようネイティブスピーカーの発音を聞き、繰

り返して話させる。

(3) 読む

- ① 日本語の文章をできるだけ速いスピードで読めるようにする。
- ② 日常生活でよく接する標識、短くて易しい文章の電子メール、カードなど様々な学習資源が活用できるようにする。
- ③ 漢字仮名交じりの多少長い文を読んで内容を要約して発表させる。
- ④ 自然な日本語が覚えられるようにネイティブスピーカーの発音を聞き、繰り返して読ませる。

(4) 書く

- ① 文字学習は文章中心の学習になるようにする。
- ② 短くて易しい日本語で自由作文を中心に書かせる。
- ③ 漢字仮名交じりの多少長い文章をコンピュータに入力させる
- ④ 多少長いメールやカードなどを直接書いてみるようにする。
- ⑤ 多少長い日本語を聞き取り、内容を要約して文章で表現させる。

3) 言語材料

(1) 発音および文字

- ① 発音は、現代日本語の標準語（共通語）の発音ができるようにする。
- ⑤ 仮名表記は、‘現代仮名づかい’に従って表記できるようにする。
- ⑥ 学習用漢字は、基本語彙表に提示されている漢字が読み書きできるようにする。
- ⑦ 韓国語の仮名表記は‘国語の仮名文字表記法’に従って表記できるようにする。

(2) 語彙

- ① 語彙は単語を単純に暗記するにとどまらず、文章の中の使われ方を通じてその意味が把握できるようにする。
- ② 実物や絵、写真などの資料を使用して単語の意味を理解させる。

(3) 文法

【別表 I】に提示されている‘意思疎通基本表現’に使われた文法項目を参照して自然に覚えられるようにする。

(4) 意思疎通基本表現

- ① 多様な学習資源を用いて状況を設定することにより、学習者が意思疎通基本表現を適切に使えるようにする。
- ② 学習者が意思疎通基本表現を活用して創意的に表現できるようにする。

4) 文化

- (1) 韓国文化と日本文化の共通点と相違点を学習者が自ら発見できるようにする。
- (2) 固定観念や知識中心の学習よりも文化の多様性が発見できるようにする。
- (3) 学習者を能動的に参加させるため、授業で扱う文化に関する内容を個人別またはグループ別に調査して発表させるようにする。
- (4) 文化学習は、理解度を高めるために絵、写真、映像などの視聴覚資料を積極的に活用する。

5. 評価

1) 評価指針

- (1) 周辺の事項よりも基本的かつ中心的な事項を中心に評価する。
- (2) 評価目標に従って分離評価と総合評価を実施するが、できるだけ総合評価の比重を高める。
- (3) 学習した内容を中心に聞く、話す、読む、書く、相互交渉能力をバランスよく評価する。
- (4) 断片的な知識よりも円滑なコミュニケーションをするために役立つ言語行動文化や日常生活文化を中心に評価する。
- (5) 学習者のコミュニケーション活動の参加度と態度などを評価する。
- (6) 評価の客観性を維持するため、評価基準を事前に提示し、その基準によって評価をする。
- (7) 評価結果は学習者の個別指導に活用し、次の段階の教授・学習計画に反映させる。

2) 評価方法

以下に提示する方法の以外にも教師自らが評価方法を考案して適用できる。

(1) 聞く

- ① 多少長い日本語を聞いてその意味を理解する能力を評価する。
- ② 多少長い日本語を聞いて状況や話題を理解する能力を評価する。
- ③ 多少長い日本語を聞いて内容通りに行動できるかを評価する。
- ④ 多少長い日本語を聞いてキーワードを理解する能力を評価する。

(2) 話す

- ① 学習した内容を中心に質問する、あるいは答える能力を評価する。
- ② 絵や写真を見て簡単に説明・描写する能力を評価する。

- ③ インタビューを積極的に導入して評価する。
- ④ ロールプレイやシミュレーションなどを通じて学習した内容を表現する能力を評価する。

(3) 読む

- ① 漢字仮名交じりの多少長い文を読む能力を評価する。
- ② 多少長い会話文や文章の大意を把握する能力を評価する。
- ③ 多少長い文を読んでキーワードを探す能力を評価する。

(4) 書く

- ① 自律作文を中心に評価する。
- ② 学習者の経験を主題にした文章を書く能力を評価する。
- ③ コンピュータを用いた日本語入力能力を評価する。
- ④ 様々なメディアを活用した情報検索活動の成果を評価する。

(5) 文化

- ① 自然な言語行動の遂行能力を中心に評価する。
- ② 日常生活文化は、個人別あるいはグループ別に調査した資料や発表した内容を中心に評価する。
- ③ 伝統文化と大衆文化は、個人別あるいはグループ別に調査した資料や発表内容を中心に評価する。